

福岡県福祉サービス第三者評価の結果

【第三者評価機関】

名 称	公益社団法人 福岡県社会福祉士会		
所 在 地	福岡市博多区博多駅前3-9-12-5F		
T E L	092-483-2944	F A X	092-483-3037
評価調査者 登録番号	07-a00003、07-b00020		

【福祉サービス施設・事業所基本情報】

◆経営法人・設置主体

法 人 名 称	しゃかいふくしほうじん あかまふくしかい		
	社会福祉法人 赤間福祉会		
法 人 の 代 表 者 名	りじちょう おがた しんじ	設立年月日	昭和・平成 44年4月1日
	理事長 小方 信二		

◆施設・事業所

施 設 名 称	だいにあかまほいくえん		施 設 種 別	保育所
	第二赤間保育園			
施 設 所 在 地	〒811-4146 福岡県宗像市広陵台1丁目8番4号			
施 設 長 名	えんちょう おがた しんじ	開設年月日	平成 13年4月1日	
	園長 小方 信二			
T E L	0940-34-1202	F A X	0940-35-3543	
E メール アドレス	akaho_2@blue.ocn.ne.jp			
ホームページ アドレス	https://www.akama-hoikuen.jp/daini2			
定 員 (利用人数)	90名・世帯(現員90名・世帯) ※該当を○で囲む			
職 員 数	常勤職員：24名		非常勤職員：7名	
専 門 職 員	保育士 19名	看護師 1名	栄養士 4名	
	調理師 2名	幼稚園教諭 16名	子育て支援員 3名	
施 設 ・ 設 備 の 概 要	乳児室 2室	ほふく室 2室	保育室 3室	
	遊戯室 1室			

◆施設・事業所の理念・基本方針

理 念	<p>安心してくつろげる大きくて温かな家</p> <p>そこには優しい笑顔があふれ笑い声が響きます。</p> <p>人と人が互いに寄り添い、信頼し合えるこの場所で、確かな絆、永遠につながる幸せの絆を育みます。</p>
基 本 方 針	<p>一、私たちは、社会の人と人とが結びつき、温かい心になれるように、人の心を受け止め、誰もが安心してくつろげる場所を提供し続けます。</p> <p>一、私たちは人と人との確かな絆を育むために、自らの心を磨き、人間性と専門性の向上に努めます。</p> <p>一、私たち自らが互いに寄り添い、信頼し合い、心をひとつにして、ともに生きる喜びをわかち合います。</p>

◆施設・事業所の特徴的な取組

<p>○遊び重視の保育の中で、コミュニケーション能力を育み、嫌な事は拒否できる自己表現や、信頼関係の築き方、人に助けを求める事ができる社会性など、生きていく力を身に着ける保育がなされています。自然豊かな環境のもとで、自主性、創造性、耐性を高める保育の工夫をされています。</p> <p>○宗像市外に勤務する保護者の送迎などにも配慮され、延長保育を利用する子どもには、夕食を提供されるなど、地域福祉のニーズに沿ったサービスを提供されています。</p> <p>○心と身体をたくましく育てるために、食育を重視した取り組みを行われています。具体的には、地元の食材を使用し、玄米や五分づき米をメニューに組入れたり、子どもが苦手な野菜を食べやすくする工夫、季節に応じた行事食など、給食が楽しみとなる取り組みもされています。</p>

◆第三者評価の受審状況

評価実施期間	契 約 日	令和3年8月1日
	訪 問 調 査 日	令和4年2月16日・2月17日
	評価結果確定日	令和4年4月15日
受審回数（前回の受審時期）		今回の受審：1回目

【評価結果】

1 総 評

(1) 特に評価の高い点

- 理念・基本方針は、明文化され、施設内に掲示され、ホームページやパンフレットに記載されています。入園時や進級時には、「入園のしおり」が配布されるなど、職員や保護者に周知が図られています。クラスだよりや SNS を活用し、保護者と密に連携をとられ、子どもの状況に沿ったスムーズな保育が行われています。
- 地域のニーズに応じて、1時間延長保育を実施される等、社会的ニーズに対応した公益的な事業運営がなされています。また、入所率・子育て支援の利用者数等の傾向や内容の分析が行われ、円滑な運営が行なわれています。
- 感染に配慮して、老人ホームやコミュニティセンターに子ども達が出向いたり、子育てカウンセリングや一時保育を行うなど、コロナ禍の中で地域との交流や地域支援事業も積極的に行う様に準備されています。
- 親子対象のほんわかクッキングを実施し、保護者との交流や食に関する意見交換会が実施される等、食育にも積極的に取り組まれています。給食では、地産地消こだわり、旬の食材を使用して、季節に応じた行事食を提供されており、子ども達の身体のみならず、心も育む食事を提供されています。アンケートの結果でも満足度がとても高いものになっています。
- カブトムシの幼虫を飼育するなど、子ども達の関心のある事を通じて、命の大切さを学び、また、自然と触れ合うことにより、豊かな心を育てる保育に努められています。
- 異年齢保育を園の方針として掲げ、実践されています。「大きな家族」の体現として「クラス便り」や「ICT」を活用し全家庭に届けられています。
- 5歳児を頂点とした集団活動環境を意図的に造ることで、下級クラスの子どもたちの成長する事への動機付けとなっています。学年末の2月（ふたつき）を移行保育期間として、卒園児を除く子どもたちは、それぞれ1つ上のクラスの保育室で過ごす仕組みがあります。進級後の子どもたちの生活造りへ向けて、とても良い取り組みだと思われれます。

(2) 改善を求められる点

- 中・長期的なビジョンは明確にされており、それに基づいた計画が策定され、円滑に運営されていますが、計画を見直す仕組みづくりが充分とは言えないようです。中・長期計画を反映した単年度の計画を立案し数値化されるなど、より具体的な計画にされ、定期的な見直しと検証を実施される事を期待します。
- 保育の質の向上に向けて、今回の評価結果を更なる飛躍のプロセスの機会とし、クラス担当中心に職員全体で情報を共有し、子ども達の個々にあった保育に、組織的に取り組まれる事を期待します。
- 各職員の職種や経験などに応じた外部研修や内部研修を実施されており、研修計画も策定されていますが、新人や臨時・パート職員等の研修の機会が充分とは言えないようです。質の高い保育を目指す為には、保育人材の育成の為にも、今後、更なる研修の実施体制の充実をされるよう期待します。
- 内容面で新旧の文書の併存が見られ、また、重複している記録やテキスト、マニュアル等も見られました。今後の電子データ化に合わせて文書類の整理がなされることを期待します。
- 保護者の意向把握に、アンケート調査までは行われていませんが、保護者の広範な意見を聞くためにはアンケート調査は有効だと思われれます。取り組まれることを期待します。

2 第三者評価の結果に対する事業者のコメント

今回の第三者評価受審を通して、園の運営の在り方や保育を振り返る良い機会となりました。評価機関の皆様には、私たちの保育を丁寧に見ていただくとともに、様々な意見交換をさせていただき、的確な指導と評価をいただきました。中長期計画を反映した単年度の計画においては、現状分析や課題の抽出を行い、具体的な目標値に基づいた実行性のある計画を策定していきたいと思えます。また、人事、労務、財務などの業務の実行性や経営改善に努め、引き続き働きやすい職場環境づくりに取り組んでいきます。

最後に、第三者評価受審にあたり、ご尽力いただいた評価機関の皆様、お忙しい中アンケートにご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。今後もこの取り組みを活かし、保護者の皆様とともに、子どもたちの健やかな成長と幸せを願い、安心安全な保育に努めてまいります。

3 共通評価基準及び個別評価基準の評価項目による第三者評価結果 (別添)

【保育所・評価項目による評価結果】

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。				
項 目		評価	コメント	
1	I-1-(1)-①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	○理念・基本方針は明文化されており、施設内に掲示されています。ホームページやパンフレットにも記載されています。入園時や進級時には、入園のしおりを配布し、保護者に周知を図られています。基本方針にも明示されており、職員会議等でも周知されています。

I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。				
2	I-2-(1)-①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	○行政の審議会や園長会において、保育や福祉の動向及び、福祉施策の情報収集が行われ、地域の保育ニーズの把握に努められています。入所率や一時保育の利用者数、子育て支援の利用者数を確認し、状況を把握・分析されています。
3	I-2-(1)-②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	○役員間で、経営課題を明確にし、前年度の福祉情勢の分析をふまえて、その年度の目標や具体的な取り組みに活かされています。会計の月・年次報告書を元に予算執行状況を把握し、職員に周知され検討されています。

I-3 事業計画の策定

I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。				
4	I-3-(1)-①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	○中・長期的な目標を明確にした計画を策定され、計画に基づいて運営をされていますが、定期的な見直しを実施にされているとまでは言えないようです。定期的な振り返りと見直しが望まれます。
5	I-3-(1)-②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	○中・長期的な構想の下で、単年度計画の重点項目を体系化されたものになっていますが、より具体的な数値目標を示され、内容も実行可能なものにして、前年度の状況や課題を明確にした上で策定される事を期待します。
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。				
6	I-3-(2)-①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	○事業計画は、年度末の保護者アンケートや、職員の自己評価の振り返り等をもとに、現場の声を拾い上げ、前年度の状況や課題を勘案して策定され、年度当初の会議で職員に配布されています。定期的に話し合いの場をもたれ、見直しを行うなど、計画・実行・検証・分析が実施されています。
7	I-3-(2)-②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a	○事業計画は、子どもの育ち目標、行事等、保護者に分かり易く伝えられています。クラス担当ごとに説明され、分かり易く理解しやすい様に配慮されています。変更等あれば、クラス便り、掲示板で周知されています。

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。				
8	I-4-(1)-①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	○PDCAサイクルに基づく取り組みとして、年度末に検証・評価・反省が行われ、クラスごとの目標と保育内容については、保育の計画・記録のみならず、日々の活動の様子を写真を活用して、可視化する等、工夫がなされています。評価結果分析・検討は行われていますが、組織的とまでは言えないようです。組織的な体制づくりを期待します。

9	I-4-(1)-②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	○評価結果に基づいて、法人内の会議や園の職員会議、クラス担当会議等を通じて、課題が検討されており、課題に対して速やかに改善が行われています。職員の自己評価の集計、分析の結果により、現状と課題を明確にして、改善策を実施される事を期待します。
---	-----------	---	---	---

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。				
10	II-1-(1)-①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	○施設長の役割や責任は、職務分掌に明示し、室内に掲示されており、主任・リーダーと連携をはかり、園全体の運営管理を行われています。有事の際の対応マニュアルはありますが、職務分掌の明文化や周知が充分とは言えないようです。有事の際に適切な対応を行うことができるよう、周知の徹底が期待されます。
11	II-1-(1)-②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	○施設長は、遵守すべき法令を把握され、外部研修や保育関連団体の会議へ積極的に参加されています。権利擁護や虐待防止、個人情報保護、労働基準法など、運営管理に必要な幅広い分野の法令を正しく理解するための取り組みが行われています。
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。				
12	II-1-(2)-①	保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	b	○クラス担当ごとに目標を立てられ、チームで遂行する現場の保育展開がスムーズに行われています。園長や主任が、各クラスと連携しながら、保育の質の向上のための工夫や改善が行われていますが、定期的・継続的な評価、分析とまでは言えないようです。さらなる質の向上のためにも、定期的な評価・分析が期待されます。
13	II-1-(2)-②	経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a	○備品や用具の有効活用、必要に応じた遊具、備品の購入等、予算の有効な執行に努められています。職員の状況等を踏まえた勤務シフトや休暇取得に配慮し、働きやすい環境整備に努められています。保護者向けの連絡ツールに「コドモン」を取り入れ、ICTの活用で業務の効率化に取り組まれています。

II-2 福祉人材の確保・育成

II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。				
14	II-2-(1)-①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	○保育の質の確保の為に、必要な職員の配置がなされ、職員の育休、産休に伴う代替職員の確保も行われており、適切な福祉人材の採用と確保、配置が行われていますが、具体的な計画が確立しているとは言いえないようです。具体的な取り組みがなされるよう望まれます。
15	II-2-(1)-②	総合的な人事管理が行われている。	b	○基本方針書やステートメントブックに、理念や基本方針に基づいた期待する職員像は明示されています。職員は、目指す姿を具体的にイメージし、個々に目標を定め、定期的な面談も行われていますが、人事考課が導入されていないようです。客観的な評価を行うためにも、制度の導入が期待されます。
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。				
16	II-2-(2)-①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a	○園長は、職員と定期的に面談を行う機会を設けられ、働き方の希望や、仕事の悩みなどを聞き取り、必要な配慮をされるなど、働きやすい環境づくりに取り組まれています。有給休暇も取りやすい状況であり、無理のない労務管理に努められ、メンタルヘルスケアも実施されています。
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。				
17	II-2-(3)-①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	○園長は、各職員の職務に関する意向や意欲を把握され、本人の成長に合わせたアドバイスをされています。職員の能力を踏まえ、個人のスキルに必要な、研修の機会を設ける様にされています。

18	II-2-(3)-②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	○年間研修計画を策定されており、それに沿って研修が実施されています。見直しも定期的に行われ、外部研修にも参加しやすいように、勤務体制にも配慮されています。
19	II-2-(3)-③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	○職員の知識や技術水準、資格取得状況を把握され必要な研修への参加を促されています。新人保育士向けの研修やキャリアアップ研修、外部の研修にも参加を促されていますが、パート新人職員の研修が十分とまでは言えないようです。保育の質向上のため、人材確保のためにも研修の充実を期待します。
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。				
20	II-2-(4)-①	実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	○実習生受け入れマニュアルを整備されており、多くの専門課程の実習生を受け入れられています。専門性に応じたプログラムを準備され、事前のオリエンテーションも行われています。実習クラスのリーダーが指導を行い、他職員や学校とも密に連携を取られています。

II-3 運営の透明性の確保

II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。				
21	II-3-(1)-①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	○理念や基本方針、保育の内容、苦情処理の仕組み、事業計画、事業報告算、決算は、ホームページに情報公開されています。園のパンフレットや子育て支援のチラシを市役所やコミュニティ・センターに配布されています。
22	II-3-(1)-②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	○事務、経理、取引に関するルールや権限責任は、明文化されています。財務に関し、会計事務所と契約を結び、適正な経営に取り組まれていますが、より、公正、透明性を高めるために外部の専門家による財務チェックや監査結果に基づく、経営改善を期待します。

II-4 地域との交流、地域貢献

II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。				
23	II-4-(1)-①	子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	○地域との交流は積極的に取り組まれており、園のしおりにも、地域交流活動の取組を掲載されています。事業計画の地域交流計画にも地域との関わりを深め、祭りや敬老会などの催しを予定されています。しかし、残念ながら、コロナ渦のため中止されている状況です。コロナ終息後、早期再開を期待します。
24	II-4-(1)-②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	○ボランティア受け入れマニュアルは作成されており、事前の説明も行われています。小学生の里帰り保育や中学生の職場体験も受け入れられており、学校教育への協力にも努められています。しかし、残念ながら、コロナ渦で中止されている状況です。コロナ終息後、早期の再開が望まれます。
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。				
25	II-4-(2)-①	保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	○関係機関リストを作成し、子どもや保護者の状況に応じた社会資源との連携が適切に出来る様にされています。市の家庭相談室や県の児童相談所など関係機関とも連携し、支援を行う体制を整えられており、関係機関の会議にも参加され、情報共有されています。
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。				
26	II-4-(3)-①	地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a	○園の事業計画に社会貢献活動を入れ、保育士が地域に出向いて行う出前保育時にアンケートをとるなど、地域福祉のニーズや課題を把握する取り組みをされています。具体的には、子育て支援講演や、園に、子育て相談室を設け、気軽に相談出来る体制を整えられています。
27	II-4-(3)-②	地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	○地域に出向いて、出前保育や未就園児を対象としたイベント、育児相談、離乳食相談を実施されています。子育て支援は年間を通じて計画的に行われており、ホームページなどを通じて周知されています。災害時には、地域の拠点として対応できるように、防災用品も備蓄されています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。			
28	Ⅲ-1-(1)-①	子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a <p>○本園では、職員は採用時に子どもを尊重した保育について研修を受けると共に、子どもを尊重した保育については、毎年園内研修で採り上げています。 ○園の保育方針・保育目標・職員行動規範・子どもの人権等について記載しているステートメントブック(職員ハンドブック)を職員採用時に渡しています。 ○4月採用の職員に対しては、少しでも本園の内容について理解を深めた上で勤務に臨むことが出来るよう、3月10日辺りから事前研修を実施しています。</p>
29	Ⅲ-1-(1)-②	子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。	a <p>○本園では年2回、職員に対しプライバシー保護に関するセルフチェックを課しています。 ○保護者から子どもに関する相談事を受けた際、内容によっては他の保護者や子どもたちの視線から外れるよう、通常の出入り口とは違う出入り口から園内に案内する等、プライバシーに配慮した上で相談を受けています。</p>
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。			
30	Ⅲ-1-(2)-①	利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a <p>○本園のパンフレットを市役所、スーパー、コミュニティセンターに置いています。 ○見学の希望は現在も受け付けており、見学者は感染対応が施されている見学コーナーから保育の様子を見ることが出来ます。見学者には「入園のしおり」等、園の内容を伝える文書類を用意し、園長や主任が対応し説明しています。 ○本園の保育内容が伝わるよう毎日、前日のクラスの様子を収めた写真をクラス出入り口に貼り出しています。</p>
31	Ⅲ-1-(2)-②	保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a <p>○入園時・進級時や必要時には「入園のしおり」を用いて保護者と面談し、園の理念、保育内容について説明しています。 ○見学希望者には現在でも感染予防対応しながら希望に応じています。 ○進級に伴う諸変更事項について保護者に説明する際には、経費が関わってくるため、説明後には同意書に保護者から署名・捺印を得ています。</p>
32	Ⅲ-1-(2)-③	保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	b <p>○本園では卒園時、転園時には、必要な情報を記載した文書を相手先に渡しています。「引き継ぎシート」として用いる決まった書式はなく、その都度個別に作成していますが、職員による差異や記載漏れが生じないよう、書式が定められることを期待します。 ○卒園前・転園前には面談の時間をもち、保護者の思いを聞き取りして、園として今後も対応できることを口頭で伝えていますが、整理され書式化された文書として渡されることを期待します。 ○卒園した子どもたちには、その年の園の行事を案内し、翌年のお正月には年賀状を出しています。</p>
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。			
33	Ⅲ-1-(3)-①	利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b <p>○「入園のしおり」に相談窓口について記載すると共に、意見箱も設置されています。 ○保護者とは定期・随時に面談を実施しており、保護者の相談や意見には適切に対応できているとの理解から、アンケートまでは実施していませんが保護者の意見を広く聞き取るためにもアンケートを実施されることを期待します。 ○保育園で過ごす子どもたちの様子を保護者に知ってもらうために、各クラス出入り口に前日の子どもたちの様子を収めた写真を貼り出しています。</p>

Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。			
34	Ⅲ-1-(4)-①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a ○本園の苦情・相談受付体制については「入園のしおり」に記載されています。 ○苦情・相談に関する第三者委員会は苦情・相談の有無に拘わらず、年2回開催され、議事録が作成されています。 ○第三者委員会開催後にはその内容についてホームページで、個人情報に配慮しつつ、公表しています。
35	Ⅲ-1-(4)-②	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a ○保護者も職員も送迎の時間を利用して相談したり、尋ねたり、話したりするので、本園には道路を挟んだ分園建設予定敷地内に駐車場が整備されており、車で送迎に来園した保護者は路上駐車の手配なく、担任や居合わせた職員と話すことができます。尚、分園完成後も駐車場のスペースは確保される予定です。 ○込み入った話しや相談事などがある際には、他の保護者たちの目に入りにくい、別の出入り口から園内に招き、面談しています。
36	Ⅲ-1-(4)-③	保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b ○職員には保護者から相談や苦情を受けた際にはその場で即答しない等、組織として対応することの大切さを折に触れて説いていますが、その手順は文書化されていません。文書化され、職員間で一致して対応ができる仕組みができることを期待します。
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。			
37	Ⅲ-1-(5)-①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a ○毎月、リスクマネジメント委員会を開き本園の状況の把握と課題について検討しています。 ○毎朝始業前に担当職員が輪番で園内外の安全点検を行っています。 ○園外活動については計画に沿って下調べをし、市に計画書を提出し、承認を得た後に実施しています。 ○本園は丘陵地帯にあるため、害虫や蛇についても注意喚起するために、誰にも判り易いように画像を多用した対応マニュアルを作成しています。
38	Ⅲ-1-(5)-②	感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a ○園庭からの園舎入室時にクラス前の足洗い場での手・足洗いや食前のうがい手洗いを徹底し、園舎内や遊具の定時消毒、定時の換気を行っています。 ○「入園のしおり」に感染症発病時の本園の対応や保護者への周知事項を明記しています。 ○各クラスの洗面所には年齢に応じ手洗いやうがいの手順を図示しています。
39	Ⅲ-1-(5)-③	災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a ○本園所在地域は、ハザードマップ上は災害危険地域となっていないが、災害種別に応じたマニュアルを整備し、避難訓練を定期的に行っています。 ○災害時備蓄品は3ヶ所の保管庫に用途別に分けて保管されており、備蓄期間に合わせて交換されています。交換時期についてはそれぞれの備蓄品の消費期限が当てられています。消費期限記載のないものについては3ヶ月ごとに交換しています。

Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。			
40	Ⅲ-2-(1)-①	保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a ○職員には採用時にステートメントブック（職員ハンドブック）を渡し、全職員が統一した姿勢で保育活動に臨むことができるよう取り組んでいます。 ○保育士養成校のテキストを参考にした本園独自の保育技術マニュアルを用いた勉強会(幼児保育勉強会)を毎月行い、職員間の技術や知識面での平準化に努めています。
41	Ⅲ-2-(1)-②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a ○職員会議、リーダー会議、クラス会議の他に、テーマを絞った委員会会議が毎月行われており、その中で必要に応じて指導計画が見直しされています。 ○保育内容についてはまずクラス会議で検討し、それを基に職員会議で検討する仕組みがあります。

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。			
42	Ⅲ-2-(2)-①	アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。	a ○入所前に、調査票や健康診断書等、事前に提出して頂いた書類に基づき個別に面談し、子どもや保護者・家庭状況について確認しています。 ○事前面談で得た情報に基づき、子ども個々の課題に応じて指導計画を作成しています。また、特に配慮が必要な園児については別にファイルを作って対応を記録しています。
43	Ⅲ-2-(2)-②	定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b ○指導計画は年4期に分けられており、各期の終わりに評価・見直しをする仕組みは整えられています。 ○仕組みは整っていますが、その仕組みを活かして、適切に子どもの発達に即した指導計画として展開させていくために、計画の中での評価と、その評価に対応する保育の課題とのすり合わせや調整が今後の園の課題とされています。園長を中心に検討が進められて行くことを期待します。
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。			
44	Ⅲ-2-(3)-①	子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b ○子どもに関する記録は個人別、クラス別、単元別、期間別に加え保育に関わる様々な記録としてファイル化されているため、文書類がかなりの量となっており、管理や整理が大変な作業になっていると思われます。記録や保存がスリム化されることを期待します。 ○本園では電子データによる記録の一元化を目指して行政とも連絡・協議しながら準備を進めているところで、現状は、紙と電子データと併用しています。
45	Ⅲ-2-(3)-②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b ○本園では記録管理者を定めています。 ○本園では新規採用職員に対し、在職職員については毎年、個人情報取り扱いについての研修を実施しています。 ○本園では文書類の保存期間を示した一覧表は整えられていますが、文書管理・廃棄について取り組みを示した規定書としてはまとめられていません。文書類の管理や破棄を適切に行うために規定書として整備されることを期待します。

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成			
項目		評価	コメント
46	A-1-(1)-①	a	○本園のある地域は高齢者家庭が多い地域のため、高齢者との交流機会を全体的計画に反映しています。 ○地域には就労家庭や若い家庭が多いため、全体的計画に地域や保護者へ向けての子育て支援活動や延長保育を採り入れています。
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開			
47	A-1-(2)-①	a	○毎朝、始業前に園舎内外の安全を点検しています。 ○子どもたちは素足で過ごすため、床については除菌と清潔に心がけて掃除をしています。 ○木造の園舎で保育をしたいとの思いから、床は板張りにし、園舎も木をふんだんに使用したログハウスの造りになっています。その分、地震や強風への対策についても十分に配慮された設計となっています。
48	A-1-(2)-②	a	○入所前に提出を受ける資料や面談で子ども、保護者、家庭に関してできるだけ情報収集し、職員間で共有しています。 ○家庭とやりとりする記録帳があり、日々の子どもや家族状況について把握する仕組みがあります。
49	A-1-(2)-③	a	○食器・食器用具の変更やトイレトレーニングへの取り組みは連絡帳を介し、保護者と十分な連携を取りながら行っています。 ○子どもたちが自分からやろうとすることについては過剰な手出しをせず見守りしています。

50	A-1-(2)-④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	○自然に恵まれている環境を活かし、野菜を育て、収穫し、食べるという過程、また昆虫を飼育し、昆虫の世代交代する過程を子どもたちがそれぞれの発達状況に応じて関わり携わることを通して、子どもたちが命のつながりや命を食べるといったことを経験できるように取り組んでいます。
51	A-1-(2)-⑤	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	○未だ十分に抵抗力の付いていない時期であり、健康面で安全に園で過ごすことが出来るよう環境を整備し、支援しています。 ○「幼児保育勉強会」を園内で実施し、職員の観察力と対応力を高める取り組みをしています。
52	A-1-(2)-⑥	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	○この時期は、子ども一人一人の自我の育つ時期として捉え、自我の育ちと確立へ向けて見守り・支援しています。 ○自身の家庭ではなかなか経験することのない、待つこと・譲ること・分かち合うことを集団保育の中で経験できるように導いています。
53	A-1-(2)-⑦	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	○コロナ禍でいるんな行事の自粛を強いられていますが、「全て行わない」で済ませるのではなく、各年齢の発達段階に応じ、このことは経験させたいと考えるものについては、十分に準備や配慮しながら実施しています。 ○3歳以上の保育では、子ども達が互いの中で育ち合うことを大切に、5歳児を頂点とした異年齢保育を実践しています。
54	A-1-(2)-⑧	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	○現在、車椅子を使用している子どもはいませんが、もしあったとしても園内はバリアフリーなので、支障なく本園を利用できます。 ○特別な配慮が必要な子どもたちについては、保育中に心身状態に変化が生じた際に、しばらく環境を変えて気持ちの落ち着きを取り戻すためのリフレッシュルームが整備されています。
55	A-1-(2)-⑨	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	○延長保育は園舎の中でも、渡り廊下で出入りする、独立した建物にあるクラスで実施されているため、一つのクラスの仲間という意識が育つのに役立っています。 ○18時過ぎのお迎えの子どもには軽食の用意があります。
56	A-1-(2)-⑩	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b	○コロナ禍により、卒園児自身の進学先小学校見学や進学先生徒との交流会は行われていないため、職員はそれぞれの進学先小学校との情報交換や情報共有に努めています。 ○保護者とは定期的に面談を行っていますが、特に5歳児保護者との面談は卒園に向けて進学に関する相談内容となっています。
A-1-(3) 健康管理				
57	A-1-(3)-①	子どもの健康管理を適切に行っている。	a	○現在、食後の歯磨きを、感染対策として行っていないため、歯磨きに代えて口腔内洗浄剤による口すすぎを行っています。 ○園では毎朝始業前の用具や環境の安全確認を「環境チェックリスト」により行い、保育中の環境については「湿度・温度チェックリスト」により行っています。
58	A-1-(3)-②	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	○健康診断・歯科検診の結果は保護者に、受診結果の報告依頼を含め、保護者に伝えています。 ○児童調査票に記載されている予防接種の実施済み・予定状況に従い、予防接種の漏れがないよう家庭と連携しています。
59	A-1-(3)-③	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	対象児については調理器具を別にしています。また、トレイを別にする事で誤配膳を予防しています。他の区別が難しい子どもについては、テーブルは一緒にしていますが、互いの食事に手が出ないような工夫をしています。 ○年に2回アレルギー状況確認の受診をしてもらい、その結果に基づいて保護者と面談し、次回受診までの給食内容について確認しています。

A-1-(4) 食事			
60	A-1-(4)-①	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a ○子どもたちが献立に関心を持つように、子どもたちの好きなキャラクター名を献立に付けています。 ○子どもたちが食材に関心を持つよう野菜作りに取り組み、収穫した野菜を献立に採り入れています。
61	A-1-(4)-②	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a ○好き嫌いに応じて代替えを提供する事はしていませんが、不得手な食材が献立に上がっている際には、意図的に少なめに盛り付けして、子どもの気持ちが軽くなるよう応援しています。 ○食事は予め全員分を配膳してしまうのではなく、食事配膳カウンターで一人一人に配膳しているため、つぎたの食事を食べることが出来ます。 ○栄養士はお替わりを届ける際に子どもたちの献立への反応を観察して給食活動に活かしています。

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭との緊密な連携			
62	A-2-(1)-①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a ○「大きな家族」という理念の下で過ごしている子ども達の心に、互いを大切な存在として思い合う心が根付いている事を、職員達はこのコロナ禍で知り、今では全クラスの「クラスだより」をまとめて、保護者に配布しています。 ○子どもが毎日を園でどの様に過ごしているか、各クラスの窓に前日のクラスの様子を貼りだしています。送迎の際に保護者はそれを目にして、家庭での親子の話題にしています。 ○コロナ禍での登園自粛期間中には各家庭へ向けて本園職員による保育プログラムを配信しました。
A-2-(2) 保護者等の支援			
63	A-2-(2)-①	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a ○本園では定期的に保護者と面談する機会があると共に必要に応じて随時個別相談に応じることを保護者に伝えています。 ○保護者から受けた相談について、どういった対応をし、どういった解決へ至ったか相談記録し、職員会議等で共有しています。 ○園児の日々の様子をICTにより配信しています。
64	A-2-(2)-②	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a ○児童虐待防止チェックシートを用いて虐待の早期発見に努め、虐待が疑われる際には市の担当課に報告し、連携して対応しています。 ○児相とも日頃から相談したり、情報交換したり出来る協力関係が出来ています。 ○市からの情報、地域からの情報で虐待の疑いのある家庭からの入園児については日頃の観察を強めると共に、保護者との信頼関係作りに努めています。

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）			
65	A-3-(1)-①	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a ○職員は3種類の自己評価シートにより定期的に自己評価し、上司からのスーパーバイズを受けています。 ○職員が悩んでいるケースや対応に困難を感じているケースについてクラス会議で事例検討し、課題の発見と解決へ向けて取り組んでいます。 ○本園では、職員は自身のクラスで使用したいと希望する絵本などの保育機材について園長に相談し、導入できる仕組みがあります。